

課題が見られた問題例 (A知識)

【A知識 4 二】

話し言葉と書き言葉との違いを理解し、適切に使うこと

(言語事項)

問題概要
生徒会長の山下さんが新入生に対して歓迎の言葉を述べるときに、話し言葉と書き言葉との違いを理解し、場に応じた話し言葉にする。

「スピーチ原稿の下書きの二題」

(メモ)
小学校との違い
○ 授業
・ 名前の変わる教科がある
・ 担当の先生が変わる
・ 難易度が高くなる
↓ 日々の積み重ね
○ 部活動
・ 文化系、体育系
↓ 見学して、含めるのを避ける
○ 生徒会活動(小学校)・児童会活動
・ 生徒が中心
・ 多くの行事
↓ 一緒に行事を盛り上げる

正答例
小学校では児童会活動と言われていた生徒会活動のことです。

(メモをスピーチ原稿にしたもの)
小学校との違いについてお話しします。
まず、授業のことです。中学校では、教科の名前が小学校と変わるものがあり、教科ごとに担当の先生も変わります。学習する内容も難易度が高くなるので、日々の積み重ねが大切になります。
二つめは、部活動のことです。部活動では、文化系、体育系どちらもたくさんあります。じっくり見学して自分にとって合ったものを選びましょう。
三つめは、生徒が中心になって多くの行事に取り組んでいます。新入生の皆さんも私たちと一緒に行事を盛り上げていきましょう。きっとすばらしい中学校生活になると思います。

要因分析

正答率【44.4%/47.1%】 無解答率【8.3%/7.7%】
・「生徒会活動」「小学校」「児童会活動」という三つの情報の関係を適切にとらえることに課題がある。
・歓迎のことばにふさわしい言葉遣い(ですます調)で書くことに課題がある。

指導上の工夫

スピーチの内容や伝え方について質問したり助言し合ったりする学習活動
・スピーチ原稿を書く場合、話すことを前提としたものであることを意識する必要がある。互いの原稿を読み合ったり、スピーチを聞き合ったりして、話し言葉と書き言葉の違いを理解することが大切である。
・スピーチ原稿をそのまま読むのではなく、メモを用いてスピーチすることができるように指導することが重要である。
・参考資料:「授業アイデア例」P1~2

繰り返し指導のポイント

小学校低学年
伝えたいことを自分の言葉で簡潔に発表する。

小学校中学年
伝えたいことをスピーチ原稿やメモを基にして発表する。

小学校高学年
伝えたい内容を箇条書きにしたメモを基に発表する。

中学校
伝えたい内容を柱立てしたメモを基に発表する。

日常生活の中の話題について、メモを見ながら適切な話し言葉(自分の言葉)で話すこと

【A知識 6 二】

目的に応じて必要な情報を読み取ること

(読むこと:選択式)

もう一つ忘れてはいけなことがありません。それは羊毛がアルカリ性の洗剤や高温のお湯で洗うと、繊維そのものが変質してしまい、羊毛が本来もっている柔らかさが失われてしまいます。それを防ぐためには、中性洗剤を使い三十度程度のぬるま湯で洗うのがよいとされています。



- 1 アルカリ性の洗剤で洗うこと。
- 2 高温のお湯で洗うこと。
- 3 中性洗剤で洗うこと。
- 4 ぬるま湯で洗うこと。

問題概要
羊毛でできた衣服の洗濯の仕方について説明する文章の内容を加えて気をつけなければならないことは何か。

解答の状況 1【2.4%/2.1%】 2【1.6%/1.6%】 3【39.8%/40.3%】
4【55.5%/55.4%】 無解答【0.7%/0.6%】

要因分析

正答率【39.8%/40.3%】 無解答率【0.7%/0.6%】
・本文中にある「中性洗剤を使い 三十度程度のぬるま湯で洗うのがよいとされています。」の二つの項目の読み取りに課題がある。
・「三十度程度」と「ぬるま湯」が同義語として使われていることへの理解に課題がある。

指導上の工夫

明確な目的をもち、自分にとって必要な内容を取捨選択しながら、説明的な文章を読む学習活動
・目的に応じて必要な情報を読み取る際には、自分にとって必要な事柄を明確にし、それに応じて情報を取捨選択しながら読み取るように指導することが大切である。
・同一の教材を用いた学習であっても、個々に異なる目的をもって文章を読み、必要な情報を整理する指導などが必要である。

繰り返し指導のポイント

小学校低学年
時間的な順序や事柄の順序を考えながら読む。

小学校中学年
中心となる語や段落相互の関係をとらえて読む。

小学校高学年
文章の内容を的確におさえ、要旨をとらえて読む。

中学校
目的や必要に応じて要約したり、要旨をとらえたりして読む。

文章と図表との関連を整理したり、図表が果たしている役割や図表が用いられていることの効果について確認したりすること